

TUAD IS HERE

日常の中の芸工大。 WEB

ミサワクラス × アジアハウス
映画祭を演出したグラフィック

山形国際ドキュメンタリー映画祭を訪れる多くの外国人を受け入れる宿泊施設「アジアハウス」が、2009年は芸工大とコラボレーション。ミサワクラスの隣のビルを改装し、1Fをカフェスペースに、2~4Fをドミトリーとして開放しました。改装にはミサワクラスで活動をする川上謙さん（大学院建築・環境デザイン領域）を中心に20名程が参加。「映画の中で暮らす」をコンセプトに、運搬用の木製パレットを利用したベッドやテーブル、カウンター、旧シネマ旭の座席を椅子として使うなど、限られた予算の中で異国の映画スタジオのような雰囲気を作り上げました。外観で最も目を引いた窓のグラフィックは、後藤和也さん（大学院ビジュアルコミュニケーション領域）によるもの。夜に浮かぶ映画のワンシーンは映画祭の雰囲気を盛り上げました。
WEB: <http://gs.tuad.ac.jp/misawa/>

表紙のART

WEB



山形交響楽団 200 回記念公演のための
インスタレーション「火の鳥」

火の鳥が大きく翼を広げ、高く上昇していく様をダイナミックに表現しているのは、燃え盛る火のように高く塗られた竹の山。山形交響楽団200回記念公演の空間演出として制作された「火の鳥」は、日本画コースの有志7名によるもの。「円形の断面を持つ竹は、音楽がもたらす調和による“和み”と真っ直ぐに成長していく揺るぎないイメージ」と日本画コースの長沢教授は語ります。立体の持つ存在感、インスタレーションの可能性、イメージを共有するチームワークは、公演で好評を博しただけでなく学生たちにも大きな刺激となったようです。

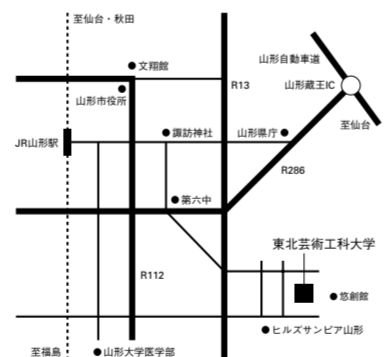
「g*g」とは?

芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインがこいい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみならず芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」。親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。広報室では、「g*g」を置いてくれるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

東北芸術工科大学

- ◎芸術学部
 - 美術史・文化財保存修復学科
 - 歴史遺産学科
 - 美術科[総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸(漆芸・陶芸・金工)/テキスタイル]
- ◎デザイン工学部
 - 企画構想学科
 - プロダクトデザイン学科
 - 建築・環境デザイン学科
 - グラフィックデザイン学科
 - 映像学科
 - メディア・コンテンツデザイン学科
- ◎大学院芸術工学研究科
 - 博士後期課程 芸術工学専攻
 - 修士課程[芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻 仙台スクール]
- ◎研究機関
 - 総合研究センター/東北文化研究センター/文化財保存修復研究センター/こども芸術教育研究センター/デザイン哲学研究所/東アジア芸術文化研究所/社会芸術総合研究所

ACCESS



東北芸術工科大学広報誌 g*g

2010年1月13日発行
発行: 学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形市上楡田3-4-5
東北芸術工科大学広報室
TEL: 023-627-2246 FAX: 023-627-2185
WEB: www.tuad.ac.jp
E-mail: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

Design: Creative Room J1
Printing: Tamiya Printing co., Ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2010

「ジー・ジー」2010 WINTER VOL.12
東北芸術工科大学

g*g

芸術市民といっしょに創る芸工大広報誌





お客まで賑わい始めたマルシェでお手伝いをする工藤さん。お隣に出店している農家の人もすっかり仲良し。

笑顔が集う場に参加できたよるこび。 マルシェ・ジャポン in やまがた

〔山形県山形市〕



農家などの生産者と消費者を結びつける都市住民参加型の市場〈マルシェ・ジャポン〉。その全国巡回版の〈マルシェ・ジャポン・キャラバン〉が山形にもやって来ました。小山薫堂教授がこのイベントの旗振り役ということで、企画構想学科の学生たちがこの全国的なイベントの運営に携わりました。学生1~2名と一生産者がチームを組み、準備段階から連絡を取り合い、農産物のディスプレイや表示方法などを検討し合

って迎えた当日。店頭には並ぶ商品は産直や朝市と変わらないわけですが、会場にデザインの要素が加わり、学生たちの明るく元気な声飛び交うことで、市場はオシャレで楽しい場所に。学生たちは生産者との交流を通じて、食や農業について学び、消費者とのふれあいを通じてマーケティングを実感。自らも楽しみ、生産者と消費者、双方の満足にふれることのできた最良の日となりました。

WEB

地元の人々 * 芸工大生

芸工大生、地域で活躍！ 人と出会い、人に喜ばれ 社会と繋がっていく。

農業、文化、スポーツ……。社会のさまざまな分野に芸工大生たちが教室を飛び出し、学内では得られない出会いと体験を通して多くを学んでいます。地域はまさに、大きなキャンパスです。



J1残留がかかった重要な試合でサポーターの結束を促すブルーリボンを配布する芸工大生ボランティアスタッフ。

さらに、こんなところでも。 芸工大生の活動の場は どんどん広がっています。



今年、肘折温泉のアーティストとして参加しました！



肘折版現代湯治2009

芸工大は、山形県最上郡大蔵村の肘折温泉を舞台に、地元の方と協力しながらアートプロジェクトを展開しています。2009年は、芸術家を地域に招き、滞在型の制作活動支援と、肘折温泉の「湯治」のスタイルと組み合わせた『肘折版現代湯治』を10月4日-11月29日に開催しました。アーティストとして6組の在学学生や教員を肘折に招待し、この地方特有の温泉文化に触発された作品を制作・展示。また、草木染や水墨画、現代舞踏などを体験できる講座など、学生たちが参加者の「温泉逗留制作」をサポートしました。参加アーティスト：太田三郎／三瀬夏之介／森繁哉十南 山座／山崎和樹／松山隼／望月梨絵



産学官との連携や 受託事業

芸工大では、総合研究センターを中心に、地域から寄せられた委託研究や企業との共同プロジェクトに積極的に取り組んでいます。近年では、新潟の大手アウトドアメーカー「スノーピーク社」とのアウトドアグッズのデザインプロジェクト(写真)のほか、県内外の地酒や農産物などの製品パッケージのデザイン、病院のロゴマークデザインなどを実施。総合研究センターでは、広く皆様からのご要望にお応えしています。



山形ドキュメンタリー映画祭 ボランティアスタッフ

山形で1年おきに開催される国際映画祭に、芸工大生もボランティアスタッフとして参加しています。デイリーニュース(日報)の制作や運営サポートなど、裏側での作業が中心ですが、国際映画祭の運営に関われるのは、山形ならではの、地元イベントを盛り上げるだけでなく、特に映画製作などを学ぶ学生にとっては、著名な映画監督や優れたドキュメンタリー映画に触れることができる絶好の機会でもあります。

開港25周年、銅像2体の美しさ再び。 山形空港ブロンズ像修復作業

〔山形県東根市〕



山形県の空の玄関口・山形空港に建つ男女2体のブロンズ像「おおぞら」と「大気に翔」。開港3年後の設置といいますが20年以上、風雨にさらされかなり傷んでいました。その修復を依頼されたのが文化財保存修復研究センターの藤原教授と美術史・文化財保存修復学科で学ぶ学生たち。「あくまでも修復、単にピカピカに磨き上げられては困る」と信頼できる修復業者を探していたという空港ビルの福島社長。知人の推薦もあってセンター依頼を決

めたといいます。12月中旬、藤原教授と院生、3年生による修復活動がスタート。新技術というドライアイスの高圧噴射で付着した塵や汚れを飛ばした後に現状分析、修復方針を決定し、実作業を行いました。実際の美術品に触れられるチャンスとあって学生たちは気合い十分。北風の冷たさを苦にする様子もなく真剣に銅像と対峙。熱心な修復作業により2体の銅像はかつての存在感を取り戻しました。

WEB



キズは？汚れは？……本格的な修復作業に向けてブロンズ像の現状を調査・分析する美術史・文化財保存修復学科の学生たち。

若さで支え盛り上げ、J1 残留の一助に。 モンテディオ山形 ボランティアスタッフ

〔山形県天童市〕



11月末の寒空の下、J1残留をかけた大一番が繰り広げられたホームスタジアムには、モンテディオ山形のボランティアスタッフとしてチラン配などに精を出す芸工大生の姿がありました。芸工大は企画構想学科の平林教授を中心に以前からモンテディオ山形と交流があり、学生たちはボランティアとしてホームゲームのお手伝いをしています。つねに7~8名の芸工大生が参加し、持ち前の元気と明るさで、比較的年齢層が高

く落ち着いた働きぶりの社会人ボランティアとはひと味違った存在感を示しているようです。元サッカー少年やプロスポーツ運営への関心、郷土愛など、参加の動機はさまざまですが、一様に一生懸命。モンテディオ山形を運営する「スポーツ山形21」のスタッフも今後は芸工大生ならではの若さや企画力をイベントなどで発揮してほしいと期待を寄せています。J1、2年目となる2010年、芸工大生も頑張りどきです。

WEB

世界アーティストサミット * 芸工大生



**絵と言葉が一体の
マインドカードで
心の言葉をプレゼント。**
齊藤美香 (東北芸術工科大学 洋画専攻) 「第3回世界アーティストサミット -未来との対話-」
ろう者のコミュニケーションは視覚的。でも、読み書きを学べない貧困社会で孤立する子どもたちが自分の感情を伝える絵と言葉のカードを提案します。



**漫画は愛があつて
とてもピースフルな
日本画だと思う。**
阿部真希 (京都造形芸術大学 日本画コース1年)
一週間家に引きこもって200ページの漫画を描きました。漫画は、多宗教で多くの文化に寛容な日本だから発達した表現自由な日本画と考えたから。



**故人の魂が宿る位牌。
思い出は私たちが
生きていくために。**
若浦友紀 (九州産業大学付属九州高等学校)
故人の思い出をデジタルデータ化して位牌の中に。故人にいつでも会えて、親族とも思い出を共有。故人を大切に思うことで今を大事に生きられます。



**世界に向けて
アートを使って
平和のための戦いを。**
ハーヴェイ・ポーターズ (ファッションデザイナー)
世界平和のための「軍服」を提案。自分の体をキャンバスに衣服を媒体として感情を表現し、広く披露することで様々な気づきをもたらすものです。

世界のアーティストと肩を並べて斬新なアイデアを世界へ発信、若者たちの自信と意欲を育んだ意義深いサミット。

昨年12月19日・20日の両日、京都造形芸術大学において「第3回世界アーティストサミット ASK2009」が開催された。芸工大生もさまざまなカタチで参加&サポート。世界のアーティストたちと同じ空気を深呼吸し、大きな感動と刺激を受けた。

「世界アーティストサミット」は、世界が直面する深刻な問題に対し、アートの想像・創造力によって解決策を提案し、発信するという目的で開催されており、その議長を本学の宮島達男副学長が務めています。第3回となった今回は「未来との対話」(明日への跳躍) (アーティスト・イン・レジデンス)の3つのプログラム構成。1日目のプログラムには、より若い世代への刺激としてほしいと学生参加型の新しい試みがいくつか盛り

込まれました。そのひとつが、大学生のプレゼンテーション。前回同様に本学主催「デザセン」の優秀校3校が発信を行った後、京都造形芸術大学の学生3組と芸工大生1名が世界の問題の解決策を提案しました。また、各国から選抜された若手アーティスト6名が約2週間わたって京都に滞在し、大学生や高校生、市民とともにプロジェクトやワークショップ活動を行った「アーティスト・イン・レジデンス」にも大学生が

参加協力。さらに、オープニングディスカッション「アーティストは世界を変えるのか?」では、大学生と高校生が参加アーティストと並んでステージに立ち、意見を交わすエキサイティングな体験にも恵まれました。一方、サミット学生サポートスタッフ「フォース」は今回も企画や広報、実施など多方面で活躍を見せ、アーティストへの糧となる貴重な経験を得たのでした。ファッション、ダンス、映画など、それ

ぞれの専門分野を活かして6名が取り組んだアーティスト・イン・レジデンス。その報告で幕を開けた第1日、高校生たちのプレゼンテーションに会場は沸き、大学生たちが日々の思いから発案した真摯な提案に耳を傾け、ディスカッションでは和やかな交流が繰り返されました。今回の狙い通りに学生たちが俄然存在感を示し、国境や人種、年齢を越えた新たな結びつきが生まれたサミットだったと言えるのではないのでしょうか。WEB



芸工大OB * 教授

篠塚慶介 Shinotsuka Keisuke
1982年宮城県生まれ。生産デザイン領域修了。「ひらめきを探す本」をロンドンで発表。現在はスウェーデンにて販売されている。現在は仙台市内のオフィスで太沼さんとシェアし、専門学校の講師をしながら各種デザインワークの依頼も受けている。

大沼剛宏 Onuma Takahiro
1981年宮城県生まれ。生産デザイン領域修了。砂の流動性・規則性を利用した造形作品「サンドスケープ」で注目を集め商品化。現在は仙台市内を拠点に創作活動やワークショップなどに取り組みながら、自らのブランド立ち上げを計画している。

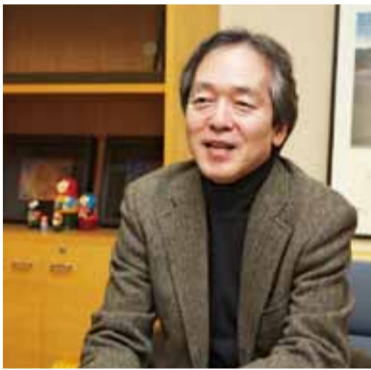
大学で出会った同郷の二人、院生時代の経験が大きな自信に。

院生時代から高いプロ意識を持ち、東京デザイナーズウィークやロンドンのデザイナーズブロックにも出展。当時、彼らのよき理解者であり、支援者だった赤坂教授は、その後の活動も陰ながらずっと応援している。

昨年末の12月5日から13日まで、大学院生産デザイン領域修了生の大沼剛宏さんと篠塚慶介さんが、2人の地元でもある塩釜市で9日間限定のインテリアショップ「9 DAYS DESIGN STORE」をオープンしました。多数のアーティストやデザイナー、建築家とのコラボ作品も含め、家具、照明、インテリア小物などのデザインアイテムを販売。多くの人々とのコミュニケーションとビジネスが生まれました。こうした2人の活動のベースにあるのは、大学院在学中に生産デザイン専攻の有志とともに結成した「Link」。当時から

意識した活動を行ってきました。東京のデザイナーズウィークに出展し、その実力を認められ、その懇親パーティーでロンドンのデザイナーズブロックの主催者に出展を薦められたそうです。「海外に出よう」という担当教授の言葉にも背中を押されてLinkメンバーは、デザイナーズブロックへの出展を決意。輸送料や渡航費、言葉の壁など、さまざまな問題解決のために大学院長の赤坂教授のもとを訪ねたのでした。その無謀とも言える若者たちの挑戦を察した赤坂教授は支援を快諾。費用も含めてさまざまなカタチでバックアップが得られ

たのです。大沼さんは砂の流動性や規則性を利用した造形作品「サンドスケープ」を、篠塚さんは支え合い自立するイス「アッセンブリーズツール」と「ひらめきを探す本」を出展。欧米では一般人でも作品に対する評価は鋭く、いいとすれば商品化やビジネスへと直結するシステム。欧米の展覧会のありようは、その後の活動に多大な影響を与えました。大学院修了から約3年、厳しい時代に巣立っていった彼らを支える赤坂教授でしたが、「大変ながらも楽しくやっています」と2人の表情は明るく輝いていました。WEB



赤坂憲雄 Akasaka Norio
1953年、東京都生まれ。東京大学文学部卒業。東北芸術工科大学大学院長、東北文化研究センター所長、福島県立博物館館長。民俗学、日本思想史専攻。東北文化研究センターを立ち上げ、東北学を推し進め、新たな日本文化像の構築をめざす。

【東北学】21号(最新号) 拍賣券1,905円(税別)で発売中。座談会「日本の村の原風景を探る」では、飯沼賢司氏をゲストに、入間田宣夫教授とともに岩手県一関市の骨寺村などについて考察。

INTERVIEW



大沼さんが企画し、さまざまなアーティストにデザイン参加を呼びかけて完成したスリッパ各種。



篠塚さんデザインのイス。ネジの目かくし部分にカラフルなフェルトを貼って目立たせているのがかわいい。



いろんなアーティストによるデザイナーズおちよこ。手軽に買える作品としてストアでも人気。



【9 DAYS DESIGN STORE】の会場となった宮城県塩釜市のビルドスペース。展覧会など多彩な企画を展開中。

『Link』から『SEED』に

「SEED」は芸工大の大学院に所属し、デザイン研究をする7人が集まったグループ。これまで大学院生のデザイナーズユニットとして3年続いたLinkからSEEDに名称を変え、今年から再出発しました。国内での展示に留まらず、2010年にイギリスで開かれる大規模なデザイン展のロンドンデザイナーズブロックへの出展を目指しています。一般の方の他、企業やデザイナーなどの多くの方に対して、考えたものを社会に発信し、評価を得る事を目的とし、自身や故郷の文化を振り返り、視野を広げていくために活動しています。



OPEN GALLERY

WELCOME TO TUAD

東北芸術工科大学 卒業 / 修了研究・制作展 2010.2.9[TUE]～14[SUN]
9:00～17:00 (入場は16:30まで) 入場無料

素直に、自然に、描かれた未来へ向かうスタートライン。

美術科洋画コース4年 飯塚咲季、近藤亜樹、竹原優、竹田奈那

2月9日から14日までの6日間、卒業 / 修了研究・制作展 (以下:卒展) を開催します。それぞれの課程を終えて次のステップへと進む学生たちはどのような気持ちで作品や研究に向かっているのでしょうか。就職、進学、起業、作家と自分の進むべき道へと人生の舵をきった4人へお話を聞きました。

ひとつの空間を4人でシェアしているというアトリエには、壁一面に広げられたキャンバスや鮮やかな色彩の写真、木の匂いがするオブジェがあり、4人の個性が穏やかに同居しています。朝9時から夜の9時までの長い時間をほとんど毎日一緒に過ごしているそうですが、お互いのことを認め合っているため制作スタイルに口をだすことはない、と4人揃って同じ答えが返ってきました。それでも雰囲気良くない時には、自然と誰かがリンゴをむいたりお茶をいれたりして心を和ませる時間を作るのだとか。

アトリエにリンゴがあるのは、卒業後にデザイン事務所を起業する飯塚咲季さん (写真右下) が、事務所のプロジェクトのひとつとして「やおや」を営んでいるから。規格外の野菜や果物を農家から貰い受け、新鮮なうちに安く売っているそうで、卒展で展示する作品の小屋の中にもリンゴやブロックリーが乗っています。卒展期間中はデザイン事務所の玄関に設置する予定のカフェを出展し、お茶を飲みながらお客さんと時間を共有し作品や仕事の話をし繋がっていきたく、と語ってくれました。飯塚さんが大事にしているのは「山形」であること。当日は山形の匂いが



感じられる温かい空間が味わえそうです。「女性」をテーマにし、写真に加工とドローイングを施し、制作者と被写体、観覧者の距離感をオリジナリティある着地点へと表現した竹原優さん (写真右上)。卒業後はギャラリーと契約して活動することが決まっている竹原さんは「これは集大成ではなくスタートラインです。」と語り、真っ直ぐな視線はすでに未来へと向けられていました。

「自分の生まれた国を描こう」という発想で心が赴くまま自由に筆を走らせるのは近藤亜樹さん (写真左上)。自分の描く線にコンプレックスを抱いてしまい長く絵を描いていなかったという近藤さんですが、今は大学院に進学を決め、自分の可能性として「どれだけ絵を好きになれるか」という問いを胸に秘めながら作品に向かっています。

今のように絵を自由に描く時間を持たなくなることを考え、22年分の自分自身を叩き込むようにして作品を仕上げているのは、舞台美術の会社へと就職を決めた竹田奈那さん (写真左下)。当初予定していたサイズの倍以上になったキャンバスの横には格子がついており、そこから作品を覗き込むことができるようになっています。

4人は「作品の前で足を留め、ずっと心に入り込む何かを感じてもらえたら」という想いと、このメンバーが多くなることを得て再び集結するであろうという確信とを聞かせてくれました。自然に未来へと歩みを進める、足の先。その一歩目を是非ご覧ください。



スタジオにて卒展のメインビジュアル撮影。中山先生と小谷さんが14人のバランスを調整しています。

人・作品・学科をむすぶ卒展「結」
一人ひとりが腕を結び合うように、作品が集結します。

2009年度の卒業 / 修了研究・制作展のテーマは「結」。この漢字に込められた想いは、多種多様なデザインを生み出した大学という場所、アート作品が一堂に会す展示会、卒業生たちが関わった人や物、地域の繋がりに向かっています。14学科の代表それぞれがアイデアを出し合って決まった今回の「結」というテーマをポスターで表現するために、学生自らの腕組みで繋がりを表現。撮影は印刷会社のスタジオで行われました。初めての現場で戸惑うこともありましたが、普段触れ合うことが少ない違う学科の学生との共同作業に、参加者はお互いが同じ出身校を持つという結びつきをより強く感じたようです。

ポスターのデザインを担当しているのは小谷拓矢さん (現グラフィックデザイン学科)。昨年度までは学生が固めたアイデアをポスターに仕上げるのはプロに依頼していましたが、今年はポスター、チラシ、サインなど全てのデザインを小谷さんが担当しました。制作物は「結」の着想を発展させた作品と合わせて、自身の卒業制作にする予定です。小谷さんは「今後グラフィックをやっていく上で良い経験になりました。全体が一丸となったいい展示会になればいいと思っています」と語っています。観る人と作品の出会いを結ぶ卒展は、2月9日から14日まで。学科、作品、人をつなぐ「結」を是非感じてください。



「東北芸術工科大学 卒業 / 修了研究・制作展」
会期: 2月9日(火)～14日(日) 9:00～17:00
会場: 大学キャンパス+悠創館
お問合せ: 大学広報室
TEL: 023-627-2246 E-mail: koho@aga.tuad.ac.jp
公式サイト: <http://www.tuad.ac.jp/sotsuten/>
(卒展2009開催記念特別講義
「卒展」にアートとデザインの未来を探す)
パネリスト: 宮島達男 (現代美術家) / 酒井忠康 (世田谷美術館館長) / マエキタミヤコ (サステナ代表) / 中山ダイスケ (アーティスト) 他
日時: 2月13日(土) 12:10～14:45
会場: 本館3階201講義室

OPEN GALLERY

在学生、卒業生の皆さんへ

東北芸術工科大学の広報誌「g・g」では、イベントなどの告知情報をお待ちしております。

EVENT SCHEDULE WEB

1/6-29

松山隼、INAX ギャラリーで個展開催
大学院洋画領域修士で、ミサワクラスで作家活動を行っている松山隼さんが個展を開催中です。特徴のあるマチエールで人物を描き出す作品は一度見ると忘れられません。是非ご来場ください。
「松山隼展—今日のお祈り—」
会期：1月6日(水)ー29日(金) 10:00ー18:00(日曜日休廊)
会場：INAX ギャラリー2(東京都中央区京橋3-6-18)

1/13-31

朝日町と東北の新しい画角たち
朝日町在住の安藤茂雄さんが40年にわたって撮影した写真群と、学生が撮影した写真群によるダイナミックな写真展を開催します。
「めくるめく東北」写真展
会期：1月13日(水)ー31日(日) 9:00ー19:00(月曜日休廊)
会場：悠創館(入場無料)

1/14-18

新たな出会いと刺激の創出を感じて
新宿眼科画廊が主催する公募によるグループ展に、大学院修士のサイトウケイスケさんがドローイングやコラージュの平面作品を出品します。様々なジャンルの作家が一同に会することで、新しい出会いや刺激の創出を目指します。
「Unknown possibility 01」
会期：1月14日(木)ー18日(月) 12:00ー20:00(最終日17:00まで)
会場：新宿眼科画廊スペースO
WEB：http://www.gankagarou.com/

1/23-3/27

小説家に学ぶプロのモチベーション
東北に出版文化を育むことを目的に「小説家・ライター講座」を開催。文芸評論家の池上冬樹氏をコーディネーターに、プロの小説家をゲストにお招きして講義を行います。小説家を目指す方の他、ゲスト講師ファンの方などお気軽にご参加ください。
「小説家ライター講座」
時間：17:00ー19:00
受講料：一般2,000円/学生1,500円/高校生無料
会場：仙台文学館(定員90名)
問合せ：東北文化研究センター
〈なぜ小説を書くのか〉
日時：1月23日(土)
講師：角田光代(直木賞作家)
〈あらたな世界への挑戦〉
日時：2月20日(土)
講師：熊谷達也(山本賞&直木賞作家)
〈小説を書き続けるには〉
日時：3月27日(土)
講師：佐伯一麦(野間賞作家)
WEB：http://gs.tuad.ac.jp/renaissance/

1/29

地球にやさしい、エコなアイデア募集中!
地球に優しいエコなもの、みんなが安心して使えるもの、社会のしくみや生活に密着したスタイル提案など幅広いアイデアを1月29日まで募集中です。
「サスティナブルデザインアイデアコンペ2009」
テーマ：「サスティナブルライフスタイル」
応募資格：国内の大学(大学院含む)、短期大学、専門学校に在籍している学生
応募受付締切り：1月29日(金)
賞：最優秀賞1点賞金20万円、賞状/優秀賞2点賞金10万円、賞状/入選5点賞金2万円、賞状
詳しくはHPをご覧ください。
主催：東北芸術工科大学デザイン哲学研究所
WEB：http://gs.tuad.ac.jp/suscon2009/

1/30-

肘折を舞台にした、芸工大OB監督作品上映
卒業生の渡邊智史さんが監督の、湯治場に生きる人々のささやかな暮らしを描いたドキュメンタリー映画「湯の里ひじおり」が山形で上映されます。前売り券は八文字屋書店、彩画堂、市内プレイガイドなどで販売中。
「湯の里ひじおり—学校のある最後の1年」山形上映
会期：1月30日(土)ー終了日は調整中
会場：MOVIE ON(山形市嶋北1-2-2)
午前中1回の特別モーニングロードショー
WEB：http://hijorieiga.blog.shinobi.jp/



2/4

親子で心もからだもぼっかぼか
寒い季節だからこそ、お母さんと一緒にからだを動かして遊びましょう!たくさん遊んで心もからだもポッカポカ。季節の歌や手遊び、絵本など、こども芸術大学ならではの、冬の遊び方もご紹介します。お友達と一緒に遊びに来てください。
「こども芸術大学 私の子育てを見つけよう」だっこってきもちいいね
日時：2月4日(木) 10:30ー11:30
会場：こども芸術大学
対象：平成18年4月2日ー20年4月1日生まれの子(申込不要/参加無料)
問合せ：こども芸術大学 TEL 023-627-2280



2/6-14

作品が入居!? アートの住処へようこそ!
「I'm here.」として昨秋に「アジアハウス」として成功を収めた三共ビルディング。次の仕掛けは「アートの住処」をコンセプトに、ミサワクラス入居メンバーが作品を「入居」させます。1階部分を「仮設アトリエ」に改造し、参加アーティストの制作プロセスを窓越しに公開するプロジェクトも開催。
「I'm here APT—アートの住処」
会期：内部公開2月6日(土)ー14日(日)
会場：ミサワクラス+三共ビルディング
出品：古川紗帆/松山隼/大槌秀樹/根本裕子/後藤拓朗/新聞俊太郎/望月理絵 他
WEB：http://gs.tuad.ac.jp/misawa/
〈ミサワザワザワ(交流パーティー)〉
日時：2月11日(木・祝) 17:30ー20:00(入場無料)



2/9-14

テーマは「結」。卒業/修了研究・制作展
第15回目となる2009年度東北芸術工科大学卒業/修了研究・制作展を2月9日(火)ー14日(日)に開催します。400名を超える卒業生・修了生たちが自ら制作・学修してきた、西藏王の麓にひろがる大学のキャンパス全体、教室やアトリエを展示スペースに、集大成としての作品や研究成果を一同に展示します。
※詳しくは裏面をご覧ください。



2/10

知っておきたい、知的財産権の在り方
知的財産権や意匠権について学び、学内での知的財産保護の在り方を考え学生の権利を保護していくこと目的に、講演会を開催します。どなたでもご聴講いただけますので、是非ご来場ください。
「デザインカフェ」あなたの作品は知的財産です
日時：2月10日(水) 16:00ー17:30
会場：本館6F 第一会議室/参加無料
講師：保谷成樹氏
主催：東北芸術工科大学デザイン哲学研究所
文部科学省私立大学オープン・リサーチ・センター整備事業(ORC)の一環です。

2/11-3/28

長沢教授が新作展示。是非ご来場ください!
美術科の長沢明教授が下記の2つの展示会に出品します。これからの日本画の方向性を見据えた作家の近・新作(大作と50号)を展示します。また、META展には卒業生の佐藤裕一郎、金子富之さんも出品します。
「日本画」の現在
会期：2月11日(木・祝)ー3月28日(日)
会場：青梅市立美術館
入館料：大人500円/小中学生100円
出品作家：長沢明/伊藤彬/内田あぐり/岡村桂三郎 他
「META展」
会期：2月15日(月)ー28日(日)
会場：神奈川県民ホールギャラリー
出品作家：長沢明/岡村桂三郎/斎藤典彦/吉田有紀/佐藤裕一郎/金子富之 他
入館料：無料

2/15-20

亀岡里美が個展。命の息吹を感じて
大学院日本画領域修士の亀岡里美さんが個展を開催します。平面作品とオブジェを15点程度展示予定です。是非ご来場ください。
「第44回レスポワール展2010 亀岡里美展」
会期：2月15日(月)ー20日(土) 11:00ー19:00(最終日17:30まで)
会場：銀座スルガ台画廊(中央区銀座6-5-8-2F)

2/18-23

新作・近作20余点、金沢近郊の方は是非
日本画コースの谷善徳講師が、香林坊大和での3年ぶり1回目の個展を開催します。新作、近作20余点と7月のペイルート視察により取材し制作した30号と10号の作品も合わせて展示。
「谷善徳日本画展」
会期：2月18日(木)ー23日(火)
会場：大和デパート香林坊店6F(金沢市香林坊1-1-1)

3/14-30

若手の登竜門に卒業生が選出・出品!
若手の現代美術作家の登竜門、第17回「VOCA展2010」に出品する作家35名の1人として、美術科洋画コース卒業生の大浦和代さんが選出され、以下の日程で作品が展示されます。
「VOCA展2010—新しい平面の作家たち—」
会期：3月14日(日)ー30日(火)
会場：上野の森美術館
WEB：http://www.ueno-mori.org/voca.html

3/20

新たなスタートへ踏み出す日
平成21年度東北芸術工科大学卒業式・修了式を以下の通り執り行います。式終了後、本館の教室で各学科・学系・コースの学位記授与を行います。
「平成21年度卒業式・修了式」
日時：3月20日(土) 10:30ー(10:00受付開始)
会場：東北芸術工科大学体育館

3/26-4/3

選抜作品が東京で巡回
美術科を中心に選抜作品による卒展の巡回展を東京都美術館でも開催します。予定や距離などの理由で山形展にはお越しになれない方や、特に関東地方にお住まいの方は、是非ご来場ください。
「東北芸術工科大学卒業/修了展[東京展]」
会期：3月26日(金)ー4月3日(土) 9:00ー17:00(入場は16:30まで)
会場：東京都美術館
企画・運営：芸術学部美術科/東京事務所

4/4

記念すべき第一歩。新顔ぞくぞく入学式
平成22年度東北芸術工科大学大学院・東北芸術工科大学入学式を以下の通り執り行います。
「平成22年度入学式」
日時：4月4日(日) 10:30ー(9:30開場)
会場：東北芸術工科大学体育館

4/4

二代目「八百屋」、入学式に堂々開店
リアカーを八百屋に改造し、大学周辺地域の農家から規格外野菜の販売代行を行っている「八百屋」が、二代目として美術科総合美術コースの学生たちに継承。入学式当日に、二代目八百屋のお披露目として開店します。
「二代目八百屋」
日時：4月4日(日) 9:30頃から
会場：こども芸術大学前空地

